筑波大学附属小学校 教諭
加藤 宣行

新教科書の特徴

実践編

本稿では、光文書院の新しい教科書の特徴とそれに基づく授業展開について触れていきたいと思います。

新教科書の特徴として「子どもたちと授業をつくっていく」という基本理念があります。そしてそれは、授業のみならず、授業後の子どもたちの学びを視野に入れています。

新教科書のオリエンテーション「道徳の時間は、こんな時間です」でも、問いを見つけ、考えを深め、授業後へ広げていくという、道徳の学習と日常生活とのつながりを図式化し、学習の流れを紹介しています。

▲新教科書のオリエンテーション「道徳の時間は、こんな時間です」

下に紹介しているのは、私が担任する２年生が授業後に書いた道徳ノートの引用です。

教材名

きれいになったずこうしつ（勤労、公共の精神）

A児

じゅぎょうをして、社会は一人じゃ生きていけないということがわかりました。だからおたがいたすけ合うということもわかりました。この「おかげ」は、どんなことにもつながっていて、「おかげ」を見つけて「ありがとう」を言えることがよいなぁと思いました。ぼくも人がこまっているときには、どんどんたすけてあげたいし、いろいろな「おかげ」を見つけて、かんしゃの心をもちたいです。

B児

今日の夕ごはんでは、学校にいる、トイレをそうじしてくれるおばさんの話になりました。お母さんたちの学校では、トイレも自分たちでそうじをしていたそうです。わたしたちが当たり前だと思っていることは、当たり前ではないということに気づきました。（中略）わたしはこのたくさんの人たちに学校をささえてもらっているおれいをしたくなりました。

このB児のような「当たり前は当たり前ではない」という気づきを得ることができたのは、授業中に「おかげ」について考えたことが生きていると言えるでしょう。この、子どもたちの授業中、授業後の学びの広がりからわかることは、次の２点です。

- 授業中に「考え→わかる」という学習を行い、視野を広げ、こだわりをもつことができるようになる。
- 授業後に、これまでは気づかなかったようなことに意味を見出すことができるようになる。

そこで重要なのは「道徳の授業で何をするか」です。その中でも大きな役割を果たすのが、当然のことですが、発問です。そしてそれに連動する板書や道徳ノートです。

たとえば「みんなが使っている図工室は、誰の『おかげ』できれいに（使いやすく）なっているのか」を考えさせます。そのときに、板書やノートに思いつくままに図や文字で「ひと・こと・もの」を書かせて（描かせて）いくのです。

するとあれよあれよという間に、子どもたちはたくさんの「ひと・こと・もの」を見つけ始めます。次にそれらの「ひと」はどんな顔かを問います。子どもたちは「笑顔」と答えるでしょう。それを受けて「笑顔になるのは誰？」と問い返します。

このようにして、いつのまにか「はたらく喜び」について考えを広げ、実践意欲を獲得していくのです。子どもたちに視覚的にはたらきかける思考ツールや板書・道徳ノートの意味と使い方については、新教科書をご覧ください。